

特53  
710

# 京都地理唱歌

猪熊夏樹 歌詞校閱  
楠美恩三郎 作曲  
岩内誠一 作歌



京都 村上書店藏版

京都歴史唱歌 全壹冊 定價金六錢

(右唱歌中の一節)

思ふも遠き延暦の

昔しの時よ桓武帝

葛野の郡宇多村に

宮居を奠めましましき

特53  
710

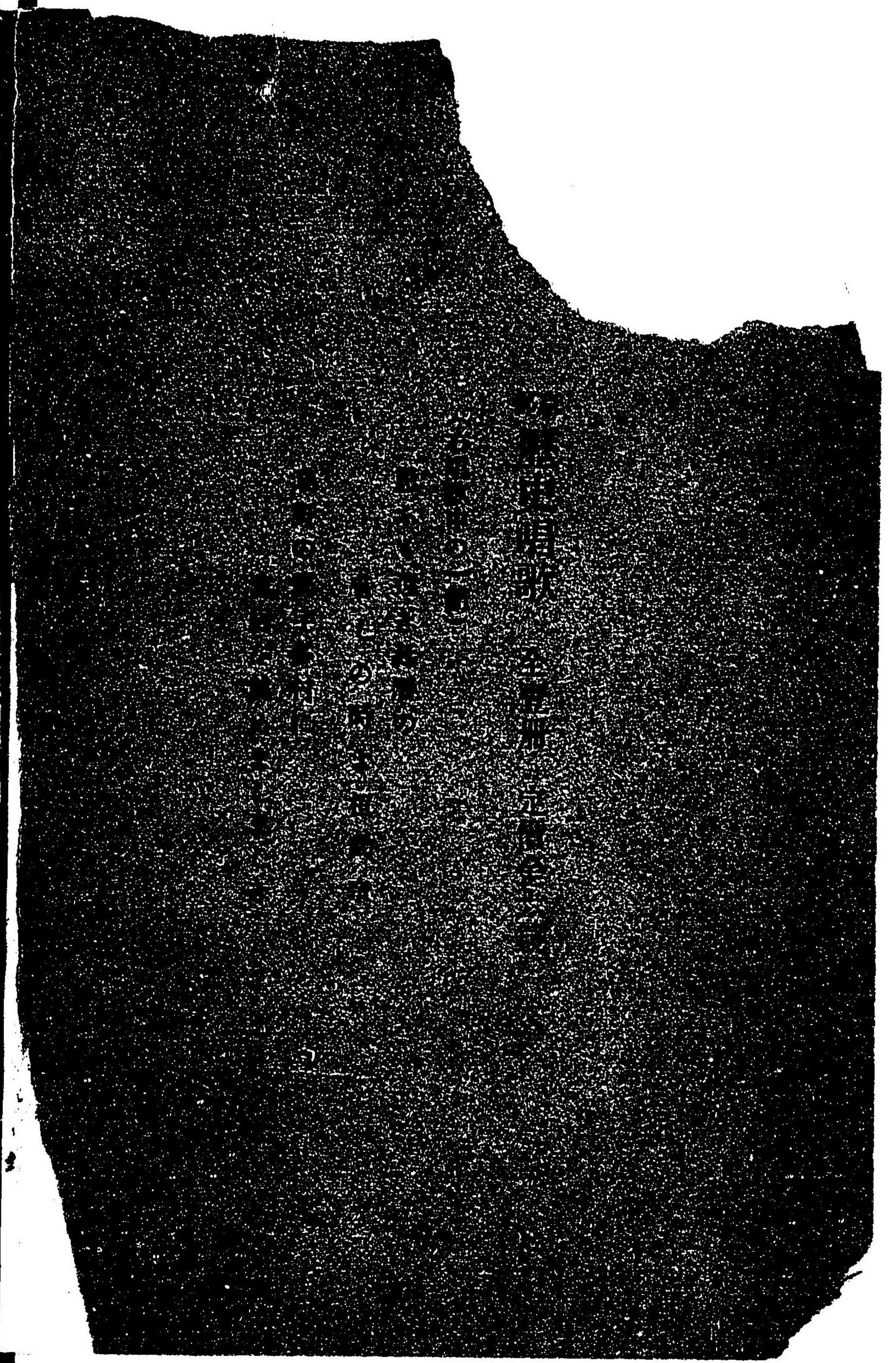
京都地理唱歌

猪熊夏樹 歌詞校閱  
楠美恩三郎 作曲

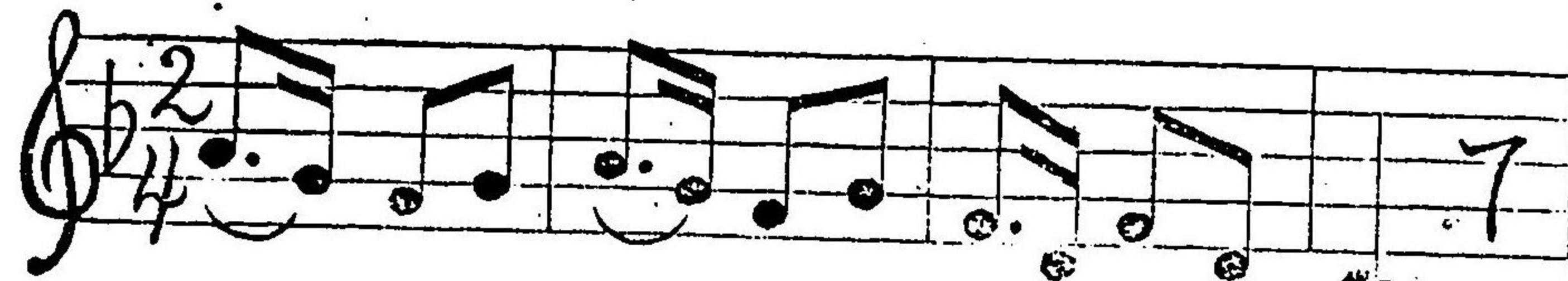
岩内誠一 作



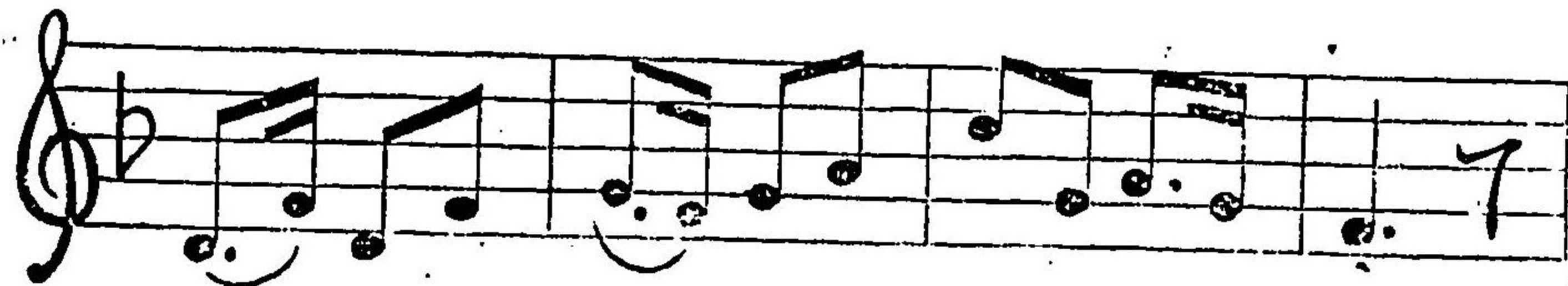
京都  
村上書店藏版



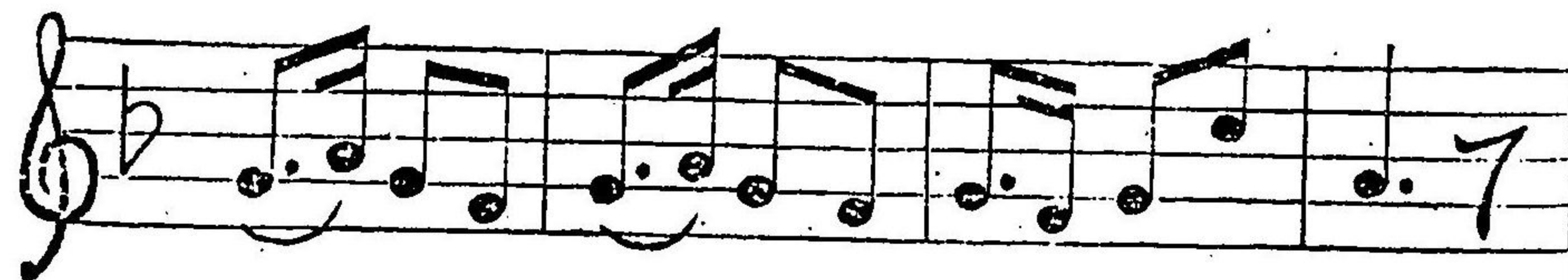
# 京都地理唱歌 快活=



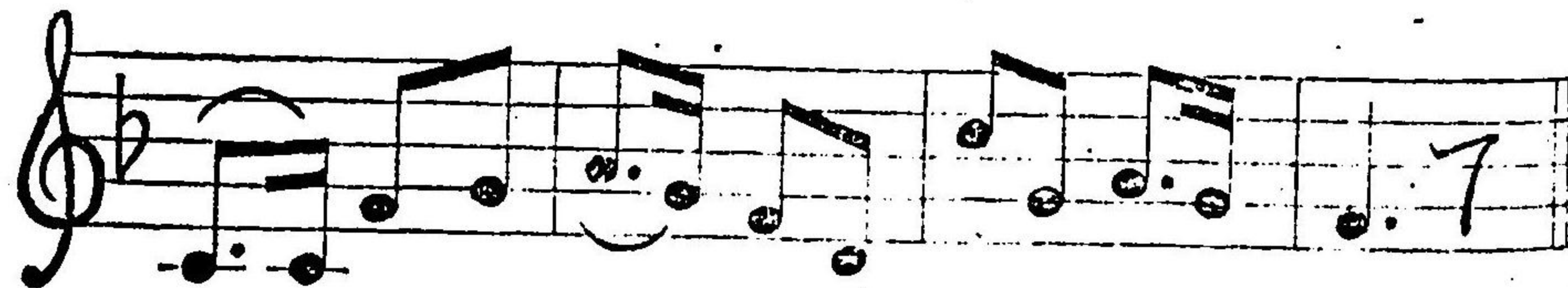
1 イーザヤ トモドチ コエアゲ テ  
 2 ひがしに をびゆる ひゑのやま  
 3 ヤーマノ スガタモ カハノセモ



ウーダヒ ウタハン モロトモ ニ  
 にしにも たーかき あたこさ ン  
 タグヒハ アーアジ クニグニ ニ



センヒヤク ヨネンノ ミヤコナル  
 かーもの ながれば きよくして  
 シーキノ ナガメノ タエマナク



ワガキヨー トーシノ チリノウ タ  
 かつらの かーはは いとふか し  
 イータル トコロハ コセキニ テ

## 緒言

これは我京都市の児童の爲めに諷唱の際に郷土地誌の梗概を知らしめんとて作りたるものなり故に歌詞は平易を貴び難解を避け専ら其骨子をのみ述へたりされは之を郷土誌として用ひん場合には必ず其足らざるを補ひ詳細なく説明を加ふべき要あり

曲譜は楠美恩三郎君の經營慘憺たる意匠になり歌詞は恩師猪熊夏樹翁及令息淺磨君の慎重なる校訂を經地圖は友人白井清司君の熱心の補助を與へられたるなり併記して感謝の意を表す

著者

同 略 符

快活ニ

3̣	2̣	1̣	2̣	3̣	2̣	1̣	2̣	1̣	6̣	1̣	6̣	5̣	0̣
イ	一	ガ	ヤ	ト	モ	ド	チ	コ	エ	ア	ダ	テ	
ひ	が	し	に	を	び	ゆ	る	ひ	え	の	や	ま	
ヤ	一	マ	ノ	ス	が	タ	モ	カ	ハ	ノ	セ	モ	
ジ	ン	コ	一	さん	ん	じ	ゆ	カ	ハ	ノ	マ	ン	
サ	ン	シ	ヨ	ド	一	リ	チ	サ	カ	ヒ	ニ	テ	
6̣	1̣	6̣	1̣	2̣	1̣	2̣	3̣	5̣	2̣	3̣	2̣	0̣	
ウ	一	タ	ヒ	ウ	タ	ハ	ン	モ	ロ	ト	モ	ニ	
に	し	に	も	た	一	か	き	あ	た	て	さ	ン	
タ	グ	ヒ	ハ	ア	一	ラ	ジ	ク	ニ	グ	ニ	ユ	
こ	す	一	は	お	一	よ	を	し	ち	ま	ん	ヨ	
カ	ミ	シ	モ	ギ	ヨ	ク	ニ	ワ	カ	レ	タ	リ	
2̣	3̣	2̣	1̣	2̣	3̣	2̣	1̣	2̣	1̣	2̣	5̣	3̣	0̣
セ	ン	ヒ	ヤ	ヨ	ネ	ン	ノ	ミ	ヤ	コ	ナ	ル	
か	一	も	の	な	が	れ	は	き	よ	く	し	て	
シ	一	キ	ノ	ナ	が	メ	ノ	タ	エ	マ	ナ	ク	
と	一	ざ	い	な	一	が	さ	い	ち	リ	は	ん	
タ	テ	ヨ	ユ	タ	ダ	シ	キ	マ	チ	ナ	ミ	ハ	
5̣	5̣	1̣	2̣	3̣	2̣	1̣	6̣	5̣	2̣	3̣	2̣	0̣	
ワ	ガ	キ	ヨ	ト	一	シ	ノ	チ	リ	ノ	ウ	タ	
か	つ	の	ル	か	一	は	ハ	い	と	ふ	か	し	
い	一	タ	く	ト	コ	ロ	ハ	コ	セ	キ	ニ	テ	
な	ん	ほ	レ	に	一	リ	の	だ	い	と	く	い	
コ	一	レ	ゾ	ミ	ヤ	コ	ノ	シ	ル	シ	ナ	ル	

京都地理唱歌 (其二)  
 いざや友どち聲あげて  
 うたひうたはん諸共に  
 千百餘年の都なる  
 京都市の地理の歌  
 東に聳ゆる比叡の山  
 西にも高き愛宕山  
 加茂の流は清くして  
 桂の川はいとふかし

比叡山 (八百五十米突)  
 愛宕山 (九百二十米突)  
 加茂川  
 桂川

三 山のすがたも河の瀬も

類はあらじ國々に

四季の眺望の絶間なく

至る所は古跡にて

四 人口三十有五万

戸數は凡そ七万余

東西長さ一里半

南北二里の大都會

人口

戸數

面積

五 三條通をさかひにて

上下京區に分れたり

縦横たゞしき町並は

これぞ都のしるしなる

六 かけ渡したる電線は

蜘蛛の糸より尙繁く

電信、電話、電氣燈

電車のひゞき絶間なし

三條通

上京區  
下京區

電信  
電話

電氣燈  
電氣鐵道

七 市内を流るゝその河は  
 高瀬の川よ堀川よ  
 運輸の便のいと多き  
 疏水運河は千代かけて  
 八 七條驛のステーション  
 西に東に路通じ  
 伏見奈良へも丹波へも  
 皆鐵道の便利あり

高瀬川  
 堀川  
 角倉了以  
 ノ功績  
 疏水運河  
 北垣國道  
 ノ功績  
 七條ステ  
 ーション

九 京都帝國大學も  
 第三高等學校も  
 吉田町には建てられつ  
 今や工業學校も  
 師範中學女學校  
 商業美術盲啞院  
 染織學校醫學校  
 諸宗の學舎も數多し

京都帝國  
 大學  
 第三高等  
 學校  
 吉田町  
 高等工業  
 學校  
 師範學校  
 第一第二  
 中學校  
 高等女學  
 校  
 商業學校  
 簡易商業  
 學校  
 美術學校  
 盲啞院  
 染織學校  
 醫學校  
 (同志社)

二 五個の高等小學校

六十有餘の尋常校

日々に通へる生徒等は

三萬人に近しとぞ

三 府廳其の他の諸役所は

いふも更なり千万の

會社銀行商店は

各つとめいとなめり

五個ノ高等小學校

尋常小學校

生徒ノ總數

府廳

銀行會社

三 わきて尊き御苑内

雲井に仰ぐ紫宸殿

清涼殿も棟高し

建禮建春宜秋門

一四 仙洞御所は神さびて

木立しげくも榮えたり

縣の井戸に祐の井に

昔の事も汲みて知れ

御苑内

(京都皇宮) 紫宸殿

清涼殿

建禮門 建春門 宜秋門

仙洞御所

縣ノ井戸 祐ノ井

(今上天皇) 湯ノ水

一五 石垣高く堀ふかき

今は離宮の二條城

南に近く神泉苑

池はみどりの影深し

一六 清磨公をまつりたる

護王神社は御所の西

梨木神社は廣小路

白峰宮は今出川

二條離宮

神泉苑

和氣清磨

護王神社

梨木神社  
廣小路

白峰宮  
今出川

一七 大佛殿の南なる

豊國神社は豊大閣

行けや平安神宮は

岡崎町に齋きたり

一八 世々に名高き寺々は

東と西との本願寺

東寺建仁相國寺

其他數へも盡されず

大佛殿

豊國神社  
豊大閣

平安神宮

岡崎町

佛閣

東本願寺  
西

東寺  
建仁寺  
相國寺



一九 鎬しのぎけづりし應仁おにの

昔むかしは夢ゆめか西陣にしじんの

戸毎とごにひゃく梭おさの音おと

是これぞ京都きょうとの命いのちなる

二〇 水みづの流ながれのそれならで

加茂かまの河原かはらの目めもはるに

夏なつなほ寒さむき白妙しろたはは

世よに名なきこえし晒さらしなり

(物産)

西陣

加茂河原

加茂川  
晒布

二 友儼ゆうげん染ぞめもうるはしく

刺繡しゅうい織物おりものもあざやかに

都みやこの錦にしきこれぞとて

外とつ國くに迄までも名なを得とたり

三 清きよ水みづ栗田あはたの陶磁器たうじきは

貿易ばいり品ひんの名なもしるく

組物くみもの漆器しつき七寶しちほうや

販路はんろはいとも廣ひろしとぞ

友仙染

刺繡  
織物

清水焼  
栗田焼

組物  
漆器  
七寶

三 其の外針、紅、扇類

何れも譽世に高く

すべて此の市の特産は

美術工藝にありと知れ

二四 美術は遠き昔より

夙く開けて名匠の

つぎくこゝに顯れぬ

繪に織物に漆器にも

針 紅 扇

二五 わきて人情優美にて

勤儉の風いとあつく

皇室尊むま心の

深きは類あらざらん

二六 多き祭の其の中に

殊に名高く聞ゆるは

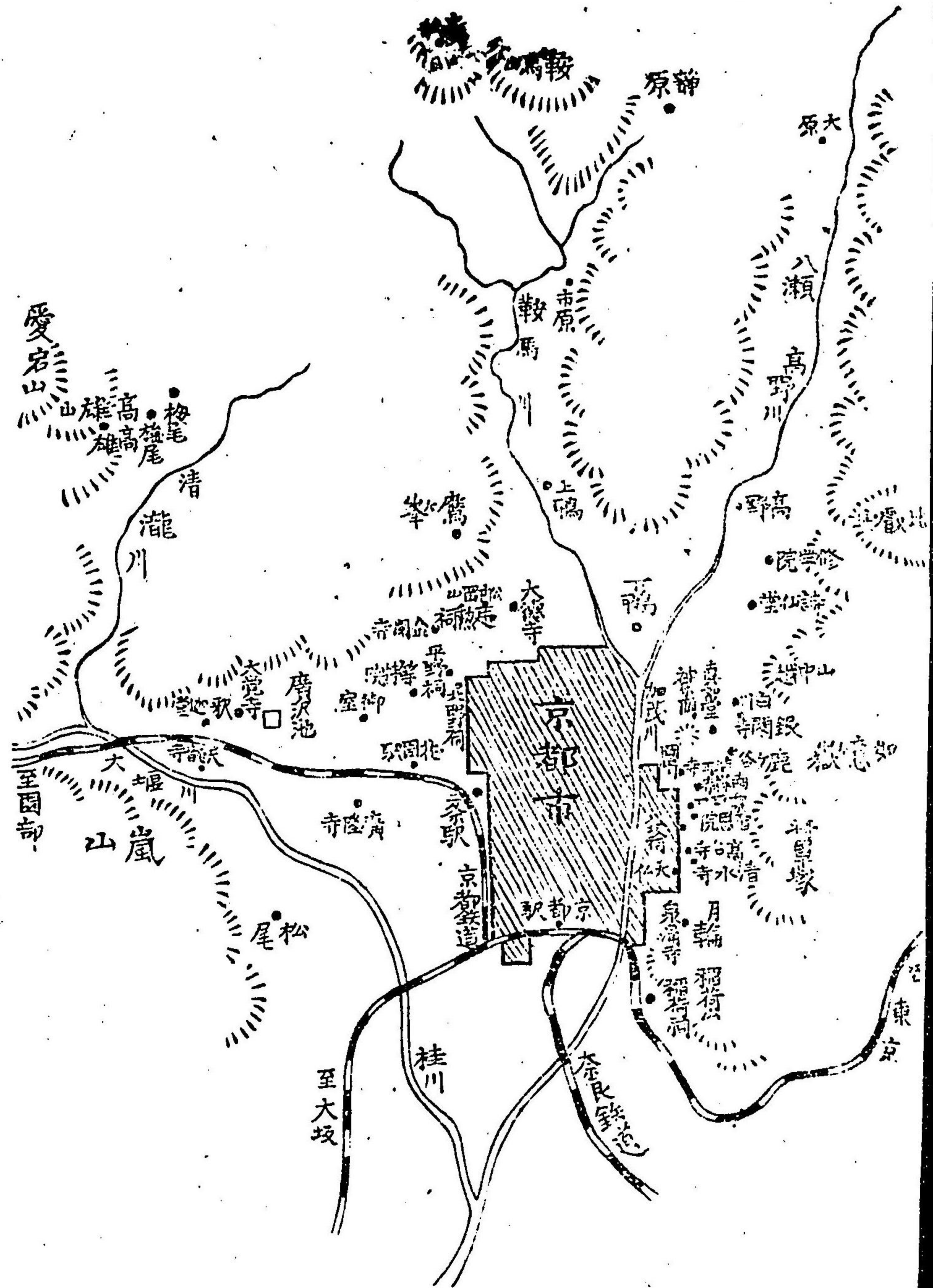
八坂の祭加茂祭

時代祭の行列ぞ

(人情風)

(祭禮)

八坂祭 (祇園會)  
加茂祭 (葵祭)  
時代祭



二七 四時折々の行事には  
 いと珍らしき事多く  
 春秋毎の眺には  
 花に紅葉に面白し  
 二八 されば年々來て遊ぶ  
 内外の人の跡絶えず  
 千年万代にぎはひて  
 榮え行くべし此の都

其二 名所廻り

一 朝日と共に立ち出で、

我京都市の周囲なる

千歳の歴史残したる

名所古跡に杖ひかん

二 翠したる東山

三十六の峰々は

聳えて高き如意ヶ嶽

つゞく圓山稻荷山

東山

如意ヶ嶽  
(大文字)  
四百七十  
米突  
圓山  
稻荷山

三 修學院には離宮あり

御庭は類なしとかわ

一 乗寺には詩仙堂

蟬の小川も程近し

四 流れのみかは石さへも

白き白川々ぞひに

上りて行けば比叡山

山中越は滋賀の路

修學院離宮

一乗寺村  
詩仙堂  
石川文  
山ノ隠  
蟬ノ小川

白川

白川石

比叡上り

山中越

五 足利將軍義政の

風流をのこす銀閣寺

談合谷はかなたぞと

昔をしのぶ鹿ヶ谷

六 神樂岡や真如堂

南ばやがて熊谷の

憂世をすてし黒谷や

岡崎を経て若王寺

足利義政

銀閣寺

談合谷

鹿ヶ谷  
(成親  
俊寛)

神樂岡  
真如堂

熊谷直實

黒谷  
(聖護院)

岡崎  
(百万遍)  
若王寺

七 こゝも紅葉の名所ぞと

永觀堂をすぎ行けば

松風清き南禪寺

音いさましき駒ヶ瀧

八 舟を陸地に上下する

インクラインの珍らしく

水利事務所は京都市の

電気事業の起り場所

永觀堂

南禪寺

佛人ジユ  
アンジュ  
駒ヶ瀧

インクラ  
イン

水利事務  
所

九 應天門の巍峨として

應天門

朱檻碧瓦のうるはしく

大極殿のおもかげを

こゝにさゞむる紀念殿

紀念殿  
(平安神宮)

一〇 尙武にさめる國柄を

世にあらはせる武德殿

武德殿

秀づる美術の精粹を

示さんための美術館

美術館

二 大津に通ふ粟田口

(三條殿上ヶ)

青蓮院を打ち過ぎて

粟田口  
大津街道  
青蓮院

上りても見よ知恩院

知恩院

名高き傘釣鐘を

傘釣鐘

三 將軍塚の麓なる

將軍塚

この圓山の公園の

圓山公園

眺は世にも聞えたり

夏は新樹に冬は雪

一三 わけて春べは一本に

花の都の賑を

集むる祇園の夜櫻や

八坂の神社長樂寺

一四 眞葛が原の跡とへば

虫の音しげし双林寺

眞萩花さく高臺寺

上に靈山招魂社

夜櫻

八坂神社  
長樂寺  
(東大谷)

眞葛ヶ原

双林寺

高臺寺

靈山招魂社

一五 八坂の塔を右手に見て

清水寺に立ちよれば

音羽の瀧の音高し

下れば大谷眼鏡橋

一六 昔平家に北條に

邸構へし六波羅は

ゆかしかれども行先の

いそがれぬれば下に見て

八坂塔

清水寺  
(歌中山  
清開寺)

音羽瀧

(鳥邊山)  
西大谷

六波羅  
(六波羅  
蜜寺)

一七 大佛殿も耳塚も

大佛殿  
耳塚

豊太閤の名残にて

豊臣秀吉  
(豊國神社)

阿彌陀が峯の頂は

阿彌陀峯

この英雄の夢の跡

一八 博物館は我國の

京都帝國  
博物館

古今の珍器いと多し

一千一軀の佛像を

いつく三十三間堂

三十三間堂  
(蓮華王院ト云)

一九 今日月の輪や泉涌寺

月ノ輪  
泉涌寺

四條の帝はじめにて

代々の帝の御陵を

歴代御陵

身は下ながら伏し拜み

二〇 夢の浮橋一の橋

夢ノ浮橋  
一ノ橋

通天橋は東福寺

通天橋  
東福寺

しるしの杉の年ふりし

稻荷神社は尊しや

稻荷神社



二 深草、伏見、宇治、八幡

後の旅にと残りおき

やうて、漚笛の一聲に

京都驛には着きにけり

三 京鐵線に乗りかへつ

東寺の塔をばあことにして

二條の驛を過ぎ行けば

北に花園、妙心寺

深草、伏見、宇治、八幡

(稻荷ステーション)

京都ステーション

京都鐵道

東寺

二條ステーション

花園ステーション

妙心寺

佐久間象山墓

三 南の森は木の島ぞ

西にはしるき、廣隆寺

昔ながらの桂宮院

京都最古の建物よ

二 兼好法師の古跡なる

双の丘は早過ぎぬ

廣澤池は彼處ぞと

語らふほどに嵯峨の驛

木ノ島

太秦

廣隆寺

(秦川勝)

桂宮院

(一千二百年前)

吉田兼好

双の丘

廣澤の池

嵯峨ステーション

二五 花はなに紅葉もみぢに春秋はるあきの

眺ながめ盡つきせぬ嵐山あらしやま

大堰おほみの川がはの清きよき瀬せに

影かげおもしろき渡月橋わたつきはし

二六 小督ことくの塚つかは苔こけむして

鐘かねの音ねすごし天龍寺てんりゅうじ

神かみさび立たてる野のの宮みやや

しぐれの亭ていに袖そでぬれて

嵐山

大堰川

渡月橋  
(大悲閣)

小督の塚  
(角倉了意)

天龍寺

野の宮  
(小倉山)

時雨亭  
(藤原定家山莊)  
(愛宕道)

二七 往生院おしじょういんや二尊院にそんいん

小倉こくらの山やまはこゝなれや

小楠公こすのうの首塚くびづかは

彼の釋迦堂しやくかだうのかたはらに

二八 大澤おほさわわたり菊きくもなく

名なこそその瀧たきは音ねたえつ

嵯峨ささぎの御所ごしよなる大覺寺だいかくじ

長刀坂ながたのさかをこゝえ行ゆけば

往生院

二尊院

小楠公首塚

釋迦堂

大澤池

人ひとこそ思おもひし菊きくを大おほ澤さわ池いけの底そこに誰たれか友ともらるらるけん紀き友とも

則すなはち名なこそ絶たぎつ瀧たきの音ねは絶たぎつ

りて久ひさしどく名なこそ流ながれどく名な猶なほきこえ

大覺寺  
長刀坂

二九 紅葉もみぢに其その名な高雄山たかをやま

檜ひのきの尾お柵さくの尾おとりぐに

錦にしきをさらす清瀧きよたきの

流なほれはいともいさぎよし

三〇 踵くびすを又またもめぐらして

大内山おほうちやまをさして行く

御室おむろは七堂しちどう伽藍がらんにて

花はなの盛さかはにぎはし

高雄山

檜尾  
柵尾  
(三尾)

清瀧川

大内山

御室  
(仁和寺)

三一 東ひがしにつまく龍安寺りやうあんじ

遙はるかに拜をひむ御陵みさきや

足利あし代よ々の將軍しきんの

すむたを殘のこす等持院とうじいん

三二 散ちるか八千代やちよの椿寺つばきでら

名なに流なほれたる紙屋川かみやがわ

北野きたの神社じんじやは菅公くわんこうの

御靈みたまをいつき祀まつりたり

龍安寺

後朱雀帝  
御冷泉帝  
後三條帝

一 堀川帝  
圓融帝

等持院

椿寺  
(散椿)

紙屋川

北野神社

菅原道真

三三 花はなに名な立たる平野ひらのをば

平野神社

過すぐればやめて衣笠きぬかさの

衣笠山

山やまの麓ふもとに義満よしみつが

足利義満

驕奢きょうしゃの跡あとの金閣寺きんかくじ

金閣寺

三四 舟岡山ふねおかやまには織田公おだこうを

舟岡山

まつれる建勳神社けんくんじんじゃあり

織田信長  
建勳神社

花はなの所ところとらたはれし

雲林院うんりんいんこそ荒れにけれ

雲林院

三五 一休いっしゅう禪師ぜんじの舊跡きゅうせきは

一休禪師

是これ紫野むらさきのの大徳寺だいてくじ

紫野  
大徳寺

やすらゐ祭まつりは今宮いまみやよ

安井祭  
今宮神社

後うしろに聳そびゆる鷹たかが峰みね

鷹が峯

三六 上うみ鴨がも神社じんじやに詣まうでつゝ

上鴨神社

行ゆけば市原いちばらみぞる池いけ

市原  
深泥池

訪まへよ中野なかのの小町寺こまちでら

小野寺

東あづまに岩倉いわくら松まつが崎さき

岩倉  
（藤房）  
松が崎

三七 神の心もいと清き

貴船神社  
貴船川

鞍馬の山は牛若の  
貴船の川のかなたなる

鞍馬山  
牛若  
(鞍馬戻)

三八 静原山をこえくれば

静原山  
大原  
八瀬

東は大原八瀬の里  
頭に薪いたゞける

女のさまの面白や

三九 高野の流に打ちそひて

高野川  
(山端)  
下加茂神社

堤たどれば下加茂ぞ  
糺の森は神さびて

糺の森  
手洗川

四〇 今はとにかへる夕暮に

頭を上げて眺むれば

送るが如し比獻愛宕

月は東の山に出て

明治三十三年十一月十日印刷  
明治三十三年十一月十五日發行

定價金六錢

作曲者 楠美恩三郎  
作歌者 岩内誠一

著作權 發行者兼 村上勘兵衛

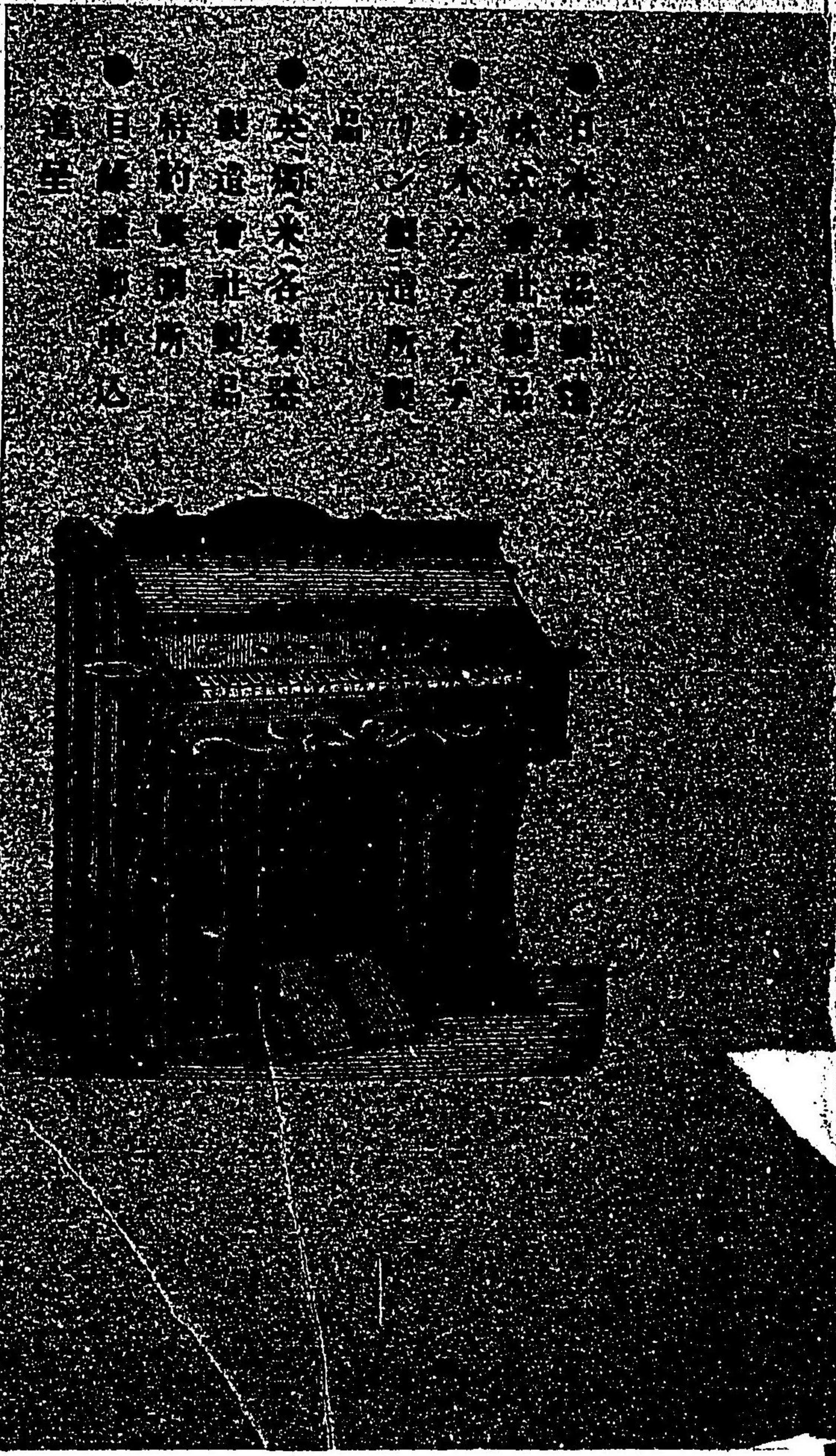
京都市東洞院三條上ル町十番戶

印刷者 石原巖

京都市二條通釜座西へ入町三十三番戶

賣捌所 各書林

著作權  
登錄濟



明治三十三年十一月十日印刷  
明治三十三年十一月十五日發行

定價金六錢

作曲者 楠美恩三郎  
作歌者 岩内誠一

著作權

著作兼  
發行者

村上勘兵衛

登錄濟

印刷者

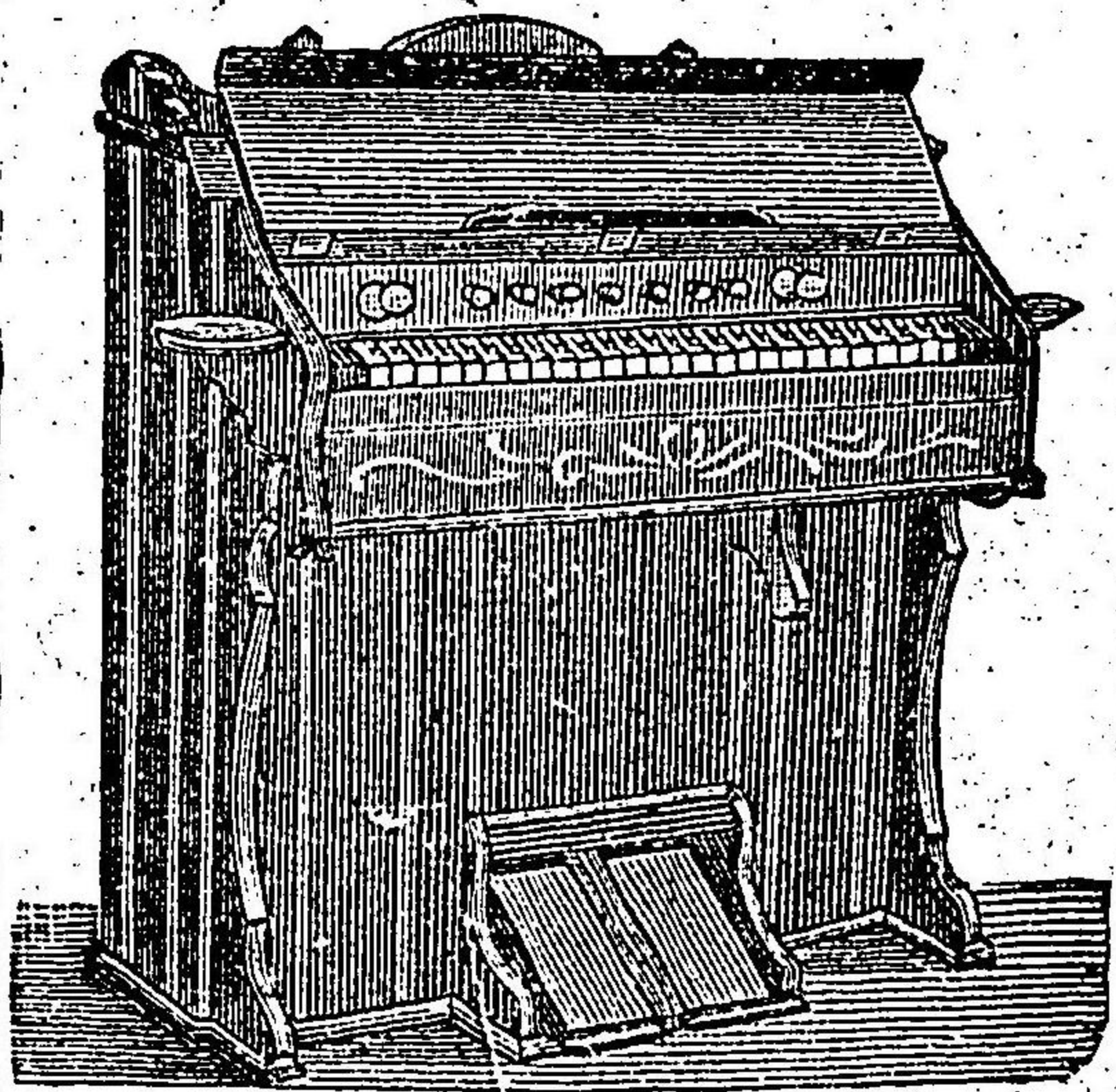
石原巖

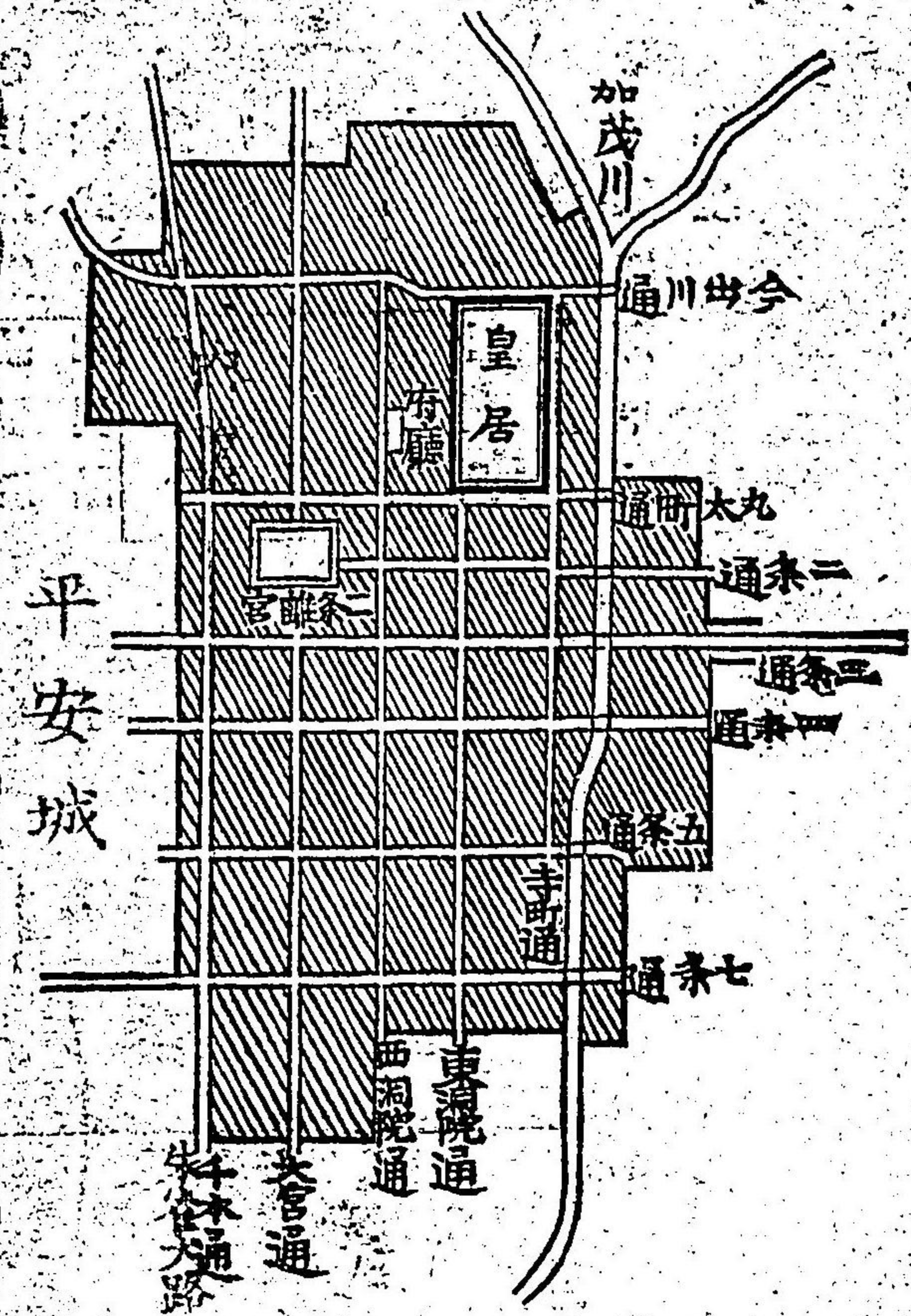
賣捌所 各書林

京都市東洞院三條上ル町十番戶

京都市二條通釜座西へ入町三十三番戶

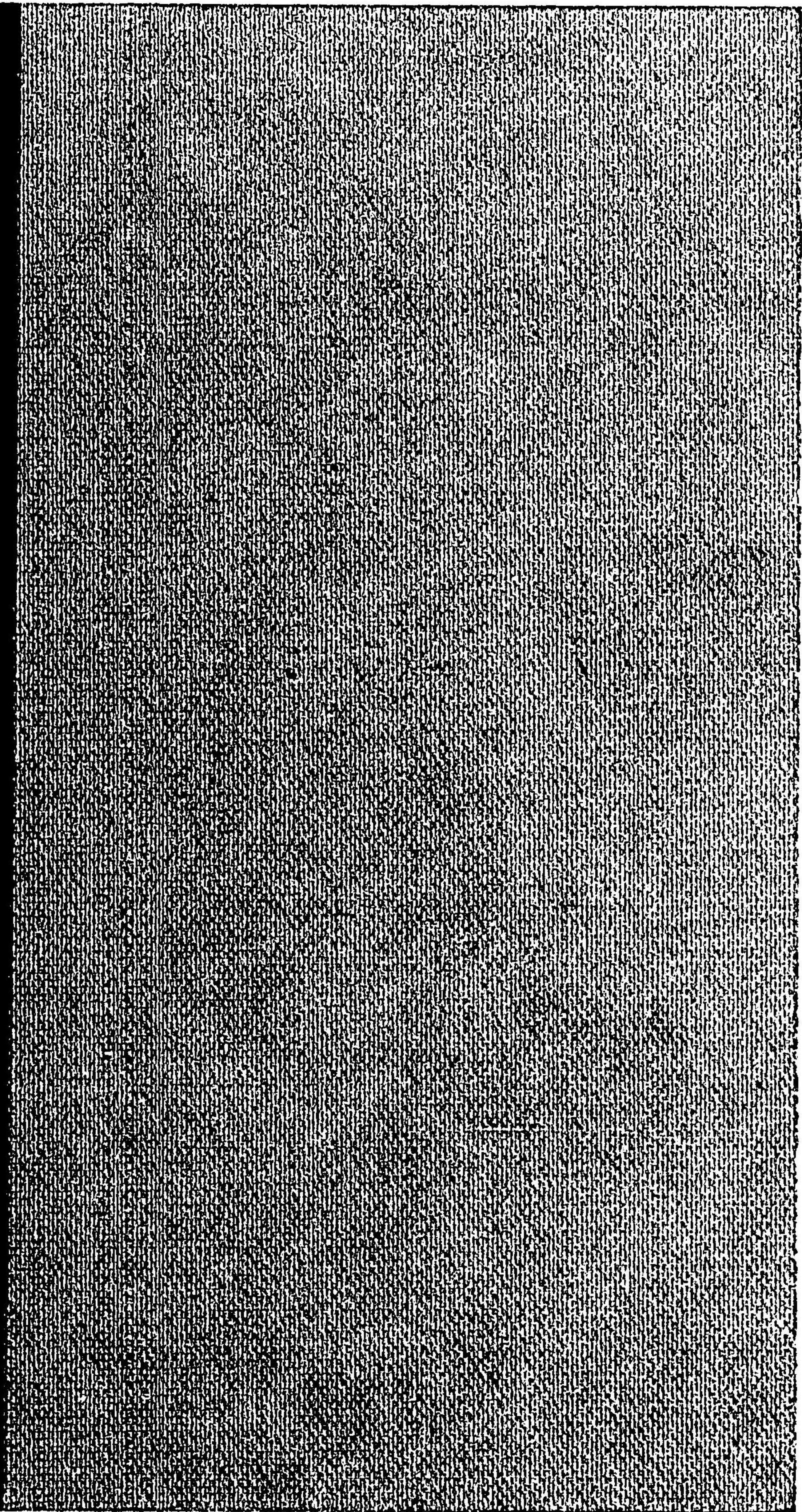
- 日本藥品製造株式會社製品
- 鈴木ウエアイン製造所製品
- 英、獨、米、各樂器製造會社製品
- 特約賣捌所
- 目錄應御申込進呈







Vertical text on a white strip, possibly a page number or title, located on the left side of the page.



特53

710

京都地理唱歌

岩内誠一

国立国会図書館

禁複写

072907-000-3

特53-710

京都地理唱歌

岩内 誠一 / 歌

楠美 恩三郎 / 曲

M33

CEH-0445



